

鳥取大学研究成果リポジトリ

Tottori University research result repository

タイトル Title	「一式飾り」探訪記：第1回 山陰の「一式飾り」に魅せられて
著者 Author(s)	Takahashi, Kenji
掲載誌・巻号・ページ Citation	島根日日新聞：5 - 5
刊行日 Issue Date	2018-01-31
資源タイプ Resource Type	論文 / Article
版区分 Resource Version	出版社版 / Publisher
権利 Rights	注があるものを除き、この著作物は日本国著作権法により保護されています。 / This work is protected under Japanese Copyright Law unless otherwise noted.
DOI	
URL	http://repository.lib.tottori-u.ac.jp/6228

「一式飾り」探訪記

鳥取大学地域学部准教授 高橋 健司

第1回

と思つて筆を執ることにした。私は論文や報告書を書くこと

とはあつても、このようなエッセイを書いた経験はなく、果して私の言葉が読者の皆さんの心に届くかどうか、心もとないが、

この連載が身近な地域に伝わる「一式飾り」を見直す契機

となればと願つた。

さて、皆さんは「一式飾り」に対してどのような印象をお持ちであろうか。毎年、平田や直江の夏祭りになると町中に飾られる、陶器などを使って人や動物を模した作り物と

論を急がず連載を通して読者と一緒に考えていきたいと考えているので、これから気長にお付き合いくださいれば幸いです。

なお、この連載には毎回写真を添えてほしいとのこと、これまで私自身が撮影した写真を整理したところ、7

いったところであろうか。

祭りが終われば作品は解体されるので、何だか無駄なことをしているという印象をお持ちの方もいるかもしれない。あるいは、芸術とはプロのアーティストが作るもの、美術館で観るものとお考えの方には、「一式飾り」は地元の方が作る素人っぽいものと映るかもしれない。それゆえ「一式飾り」が研究になるのかと不思議がられるのも分かるような気がする。

記憶に残る作品はいくつもあがるが、その中から今回は「平田一式飾り」の「フラメンコ」を取り上げたい。

私は反対に、世間一般から見れば無駄と思われているものこそ、大切な価値があるのではと考へてしまふ性質なので、それを明らかにすべく

「フラメンコ」は平田の西町在住で平田一式飾り保存会の加納英雄氏を中心になって2011年に制作された作品で、この陶器一式でできたダンスの今にも動き出しそうな躍動感あふれる姿に、息を

何度も足を運び、「一式飾り」の価値を探求し続けている。では、その価値とは一体何なのかという話になるが、結

論を急がず連載を通して読者と一緒に考えていきたいと考えているので、これから気長にお付き合いくださいれば幸いです。

作品である。

先日、鳥取大学の私の研究室に突然、鳥根日日新聞の編集長から電話があり、「一式飾り」の連載記事を書いてみないかというお誘いを受けた。鳥根日日新聞さんとは毎年7月20日に出雲市平田町で開催される平田天満宮奉納一式飾り競技大会(コンクール)の表彰式でお目にかかる程度。引き受けるべきかどうか迷っていると、表彰式で行った私の講演について触れ、「一式飾り」を研究されている方がいらっしゃると思いませんでした」Aの言葉。

お話を伺いながら、出雲の方でも「一式飾り」を研究するということが不思議に思われるのだなど、妙に納得するところがあり、ならば私の心を捉えてやまない山陰の「一式飾り」の魅力を、一人でも多くの方に知ってもらいたい

山陰の「一式飾り」に魅せられて



陶器一式
フラメンコ
西町